

## 防犯フィルムのご紹介

ライフガード北陸 支社長 高嶋 郁



窓ガラスを割って住宅に押し入る強盗事件が全国で多発しています。

警察庁によりますと、SNSで実行犯を募集し行われた強盗や窃盗などの事件は、2021年夏から今年1月までに14都府県で50件以上の発生を確認しているとのことです。

SNSによる犯罪実行役の募集や、匿名性の高い通信手段の浸透で、上位メンバーまで捜査が届きにくい環境の中、「詐欺よりも手っ取り早く金銭を奪える強盗に手口をシフトしたのではないかと分析されています。

侵入の手口で一番多いのが「ガラス割り」です。

なぜなら、ガラスは建物の中では一番弱い部分で、特別な技術がなくても簡単に破ることができるからです。

強盗事件が多発する以前からも、ガラス割りという手口は、無施錠の次に多い手口となっています。

### ガラス割りの手口について

①三角割り ②打ち破り ③焼き破りが主な手口となっています。



面格子をバールで破壊し、三角割りでガラスを破壊し、侵入された実際の写真

①三角割りとはマイナスドライバー等を窓ガラスと窓サッシの境目にねじ込み、クレセント錠付近の窓ガラスにヒビを入れ、ヒビ割れたガラスを取り除き、そこから手を入れて鍵を開ける手口です。「こじ破り」とも言われます。

②打ち破りとは、バールなどの道具を使い、ガラスをたたき割る手口です。大きな音は出ますが、短時間で簡単にガラスを破ることができます。

③焼き破りとは、バーナーなどで窓ガラスを加熱し、そこに冷たい水や冷却スプレーをかけ、温度差を生じさせ、熱割れを起こさせる手口です。クレセント錠の近くを熱し、ガラスが割れたら手を入れ、クレセント錠を回して鍵をあけます。

①と③については、破るときに大きな音が出ない為、よく使われる手口となっています。

このように侵入手口としてガラスを狙われる場合が多いので、防犯対策する際は、ガラスの強化が重要となってきます。

強盗等が家に入ると、家の中で何が起きても外には知られにくく、暴行、強姦、殺害などさらに大きな事件に発展してしまいます。

防犯対策をするうえで一番大切なのは、「侵入させない」ということです。ガラスを強化することで、侵入させない対策をとることができます。

ガラスを守る対策としては、窓ガラスに防犯フィルムを貼る、防犯ガラスに入れ替える、防犯面格子を取り付ける、という方法があります。

手軽にできるガラスの強化で有効なのが、窓ガラスに防犯フィルムを貼ることです。

防犯フィルムを貼ってあるガラスをハンマーでたたくとガラスは割れても、厚いフィルムがガラスを保持するので、外部から侵入しづらくなります。

今ある窓の室内側に貼ることで、外からの攻撃に強くなり、侵入に時間をかけさせることができます。

5分間守れれば、侵入者の7割があきらめるというデータも出ております。

防犯フィルムと言ってもいろいろな種類があります。

厚みも重要なのですが、ホームセンターなどで市販されている防犯フィルムは、厚みが防犯の基準に達していないものも多くあります。

防犯フィルムを選ぶときに重要なのは、CPマークを取得しているフィルムかどうか、ということです。

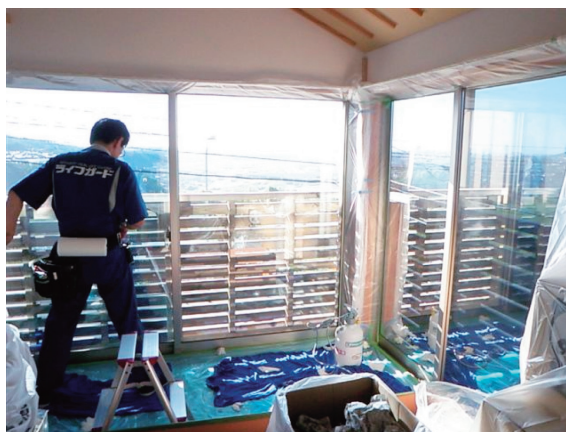
防犯性能試験に合格した製品を、定められた条件で施工した場合、防犯フィルムの表示であるCPマーク（ラベル）を貼付することができます。Crime Prevention（防犯）のCとPの頭文字をシンボル化したもので、「防犯性能の高い建物部品」の普及のために官民合同会議の構成5団体で制定、使用しています。

#### CP認定された防犯フィルムの条件とは

- ①フィルムはPET製で、厚みが350 $\mu$ m以上であること。
  - ②日本ウインドウ・フィルム工業会が指定する接着液を使用していること。
  - ③日本ウインドウ・フィルム工業会が認定する「防犯フィルム施工技能者」（技術検定フィルム作業1級、2級技能士 ※国家資格）が施工すること。
- ※5mm厚のフロートガラスに貼り付けること。
- ※注意 3ミリ・4ミリ厚複層ガラスに施工できる製品は、該当する性能評価試験に合格したものに限られます。（詳細は日本ウインドウ・フィルム工業会ホームページの防犯フィルム適合製品を参照ください）
- ※施工は、防犯性能を確保するため窓全面に貼付する「全面貼り」を行い、窓の一部にフィルムを貼付する「部分貼り」は認められていません。



網入りガラスは強いと誤解している方が多いが、簡単に破ることができる。ガラスが割れ落ちず大きな音もしないため泥棒の好むガラスでもある。



防犯フィルムの施工風景

防犯カメラは、侵入者に対する抑止力と、犯人特定に効果を発揮しますが、ガラスを割り、侵入する侵入盗を防ぐことはできません。

一方、防犯フィルムを窓ガラスに貼付けしておくと、侵入者がガラスを割るのに時間がかかり侵入をあきらめたり、侵入する時間を遅らせたりする効果があることから、既存の窓ガラスへの防犯対策として最適です。

防犯対策は、合わせ技をすることでますます効果が高くなります。

防犯フィルムを貼った窓には、既存のクレセント錠の他に補助錠をつけたり、窓が写るように防犯カメラを設置し、ガラスを割る時間をかけさせることで防犯カメラに写る時間を長くし、犯人を特定しやすくすることもできます。



防犯フィルムを貼ったガラスを、ハンマーで叩いても貫通しにくく、手を入れられるだけの穴を開けるのに時間がかかるし、大きな音が出る。

防犯シャッター、雨戸等がつけられない出窓などにも、防犯フィルムを貼ることができます。

防犯フィルムは、防犯対策だけでなく、台風や突風、地震の際のガラス割れによる被害も防ぐことができます。

いざという時、室内から外に脱出する際も、防犯フィルムなら可能です。

紫外線を約99%カットし、床やカーテン等の色あせも軽減できます。

窓に貼ることでたくさんの効果を得ることができる防犯フィルムは、これからのニーズにマッチした商品です。

### 【防犯フィルムのお問い合わせ】

ライフガード北陸(富山県防犯設備協会 会員)

電話番号：076-479-0801

メール：info@lg-hokuriku.com

住所：〒939-3541 富山県富山市水橋沖64-1